

マーケット概況（2023年9月）

9月の債券相場は米国の雇用情勢悪化への懸念から米国債が買われた流れを引き継ぎ、小幅に買われて始まった。債券先物9月限は前月末比9銭高の146円91銭で寄り付いたあと、一時147円13銭まで上昇し、10年371回債の利回りは0.625%まで低下した。しかし7日の30年債入札が低調となったことや、9日付の一部報道で植田日銀総裁がマイナス金利解除も選択肢との認識を示し、早期の政策修正の可能性が意識されたことで反落した。さらに20日のFOMCで米国の政策金利見通しが引き上げられたことで、債券相場は下げ幅を拡大する展開となった。2013年5月以来の同償還3銘柄となった5年債入札や20年債入札に加え、40年債入札を順調に通過したことや、日銀金融政策決定会合の結果が全会一致の現状維持となったことで買われる場面があったものの、月末にかけて軟調に推移した。29日に債券先物12月限は144円84銭まで下落し、10年371回債もカレントとして2013年9月以来の水準となる0.770%をつけたが、5年超10年以下の臨時オペがオファーされたことで買い戻された。ただ超長期債は下げ止まらず、30年79回債は一時2013年9月以来の水準となる1.745%をつける場面が見られた。債券先物はオペアウンス後にやや反発し、144円96銭で取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は前月最後の入札が強く決まったことから警戒感は強かったが、事前予想に近い-0.15%台で着地し、中旬にかけて-0.14%台まで上昇した。21日入札の3M1184回債は-0.13%台での落札となったが、足元金利の低下に伴い、入札後は-0.185%まで低下した。29日の3M1185回債から年末越えの償還となり、投資家需要の強さから-0.24%台となり、最終的に-0.308%で取引を終えた。6M1180回債入札は、投資家の玉確保姿勢が先行し最高落札利回り-0.1462%と好調な結果で、入札後は売り物出難く、出合いなく終えた。1Y1183回債入札はマイナス金利政策撤廃時期への思惑などから最高落札利回りは-0.0189%と低調な結果となったが、全体的な品薄感から、月末にかけては-0.090%まで低下し取引を終えた。

<一般債市場>

国債金利が上昇傾向で推移するなか、9月の定例地方債10年債は、絶対金利を意識したニーズからスプレッドのタイト化基調が継続し、前月対比6bpタイト化の国債対比+12.0bp、5年債も前月対比1bpタイト化の同+12.0bpで条件決定した。新発債に対する投資家の需要は継続しているが、既発債ではスプレッドタイト化の進展により需要に翳りがみられた。SDGs債関連では、TDKが同社初のグリーンボンドを起債したほか、日本精工が同社初のサステナビリティリンクボンドを起債した。社債発行額は19,524億円と前月から大幅増加、前年同月比でも6千億円強の大幅増加となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#371	0.635(1日)	0.625(1日)	0.770(29日)	0.765(29日)
#370	0.605(1日)	0.600(1日)	0.750(29日)	0.740(29日)
#361	0.420(1日)	0.415(1日)	0.560(29日)	0.560(29日)
#160-#161(5Y)	0.210(1日)	0.205(1日)	0.315(29日)	0.315(29日)
#185(20Y)	1.365(1日)	1.340(1日)	1.490(29日)	1.485(29日)
#1174-#1180 TDB(6M)	-0.150(7日)	-0.155(7日)	-0.150(7日)	-0.155(7日)
#1179-#1185 TDB(3M)	-0.195(1日)	-0.310(29日)	-0.142(11日)	-0.308(29日)